

市設置の遊具の2割に異常

吉川区内では4基に異常あり、一部は使用中止

上越市はこのほど市が設置した遊具について安全点検を行いました。それによると、市内の415の施設に滑り台、ブランコなどの遊具が2274基設置されていますが、そのうち、19・3%にあたる439基で異常が見つかりました。担当課（用地管財課）では、このうち84基について使用禁止措置をとりました。

吉川区内で市がこれまで設置した遊具数は保育園、小学校、農村公園などにトランポリン、鉄棒、滑り台、「ぎったんばったん」（原文のまま・シーソーのこと?）、ジャングルジム、ブランコなどが

約40基あります。



このうち、吉川小学校のジャングルジム、滑り台つき雲梯（わたり棒）、遊ランドの回転ブランコ、「ぎったんばったん」の4基で腐食などの異常が見つかり使用



中止などの措置がとられました。ただし、吉川小学校のジャングルジムは連休中に緊急修繕が行われ、5日現在、使用可能となっています。

遊具の安全確保問題については、昨年のお盆の金谷山ボブスレー場での追突事故後、私も現地調査を行い、昨年の9月議会の文教経済常任委員会でも安全点検マニュアルなどに基づく安全管理の徹底を求めています。遊んでいる時は楽しいばかりですが、遊具の管理次第では転落や破損・腐食による怪我などの事故につながる可能性があります。ぜひ定期的な点検などを徹底的にを行い、子どもたちの安全を守ってほしいものです。（写真左上は尾神岳のボブスレー。右上は遊ランドの遊具の一部です）

尾神岳での山菜まつり、盛況

今年の大型連休は天候がよく、行楽地は大勢の人が出てにぎわっています。

吉川区では、尾神岳に出かけてボブスレーなどを楽しむ人たちがにぎわいました。先月29日、30日と尾神岳見晴らし荘のそばで行われた山菜祭りも次々とお客が訪れる繁盛ぶりでした。

山菜まつりでは、見晴らし荘前の駐車場にテントが張られ、ウド、タラの芽、コシアブラなどが格安で販売されました。今年は雪消えが早

かったこともあって、ウドはすでに終わりに近づいていきましたが、スタップの皆さんは、この日のために遅くなってもいいウドを確保してお客さんへのサービスにとめていました。ウドの粕汁の無料サービスもありました。

山菜まつりは終りましたが、尾神岳はいま芽吹き季節を迎えています。空気はさわやか、景色は抜群、家族みんなで訪れてみませんか。なお、山菜まつりは来年の大型連休中にまた取り組むそうです。



（写真は山菜まつりの様子。30日撮影）

市民クラブ議員と一緒に産廃最終処分場候補地視察へ

市は先に行われた市議会厚生常任委員会の場で、産廃最終処分場候補地として春日山の西部にある宮野尾地域が最適であると考えていることを明らかにしました。

同地域については、環境破壊につながる心配があるとか、歴史的な遺産の破壊などの批判の声もあがっています。

日本共産党市議団は、7日午後、市民クラブ（小関信夫議員など8人）と一緒に現地視察を行うことにしています。視察結果などは続報します。



NO 1293
2007.5.6

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
TEL 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www1.ocn.ne.jp/~hose/>

左記の電話が通じない時、こまった時は橋爪法一の携帯電話へ
090-5392-1961

春よ来い 第七八回 靴

物忘れがはげしくなっても人間としての喜びは変わらない。美味しい物を食べた時は笑顔になるし、美しい景色を見ればうっとりします。ひよっとすると、物忘れがひどくなる前よりも感情が豊かになっているのかもしれない。じつは先日、そんなことを感じた一件が我が家でありました。

ベッドに寝たままの格好で父が私を呼びました。「おい、とちや、ちよつと来い……。ほら、いい靴だろ」

父が指差す床の上には、新聞紙が敷かれていて、その上に真新しい靴が並べてありました。

「いい靴だね。どうしたが、これ」そう言うと、「りんちゃん買ってくれたがだ」と答え、ニコニコしています。孫から何かを買ってもらうのはこれまでも何回もありましたが、今回の喜びようといったら、まるで生まれて初めて革靴を買ってもらった時のようです。心が弾んでいることがはつきりと分かりました。

現在、父が靴を履くのは、かかりつけの医院、デイサービス、ショートステイに出かける時くらい。ほとんど歩けないので、靴を履く必要があるのは、ほんの一時（いつとき）です。にもかかわらず、靴を繰り返して見てニコニコしている。このような喜びをみせる父の姿はとても新鮮でした。

娘が父に買ってやった靴は、薄茶色のカジュアルシューズでした。ひもがついていなくて、足を入れるだけで気軽に履ける靴です。これなら、体の不自由な父でも履きやすい。というより、履かせやすい。もつとも、父が気に入ったのは、こうした靴の機能性よりも、この靴そのもののかっこよさのようです。

私には父の靴にたいする特別の想いがあります。子どもの頃、父が酒屋者（さかやもん）に出る時、帰る時は、革靴を履いていました。がっちりとした体を支えるにふさわしい大きい、しっかりした靴でした。サイズは見たことがなかったのですが、今回の出来事で確認できました。二八センチ。改めて、その大きさにびっくりしました。そつと私の足を父の靴に並べてみると、確かに私の足よりも長い。おもわずため息をついてしまいました。

父の足が大きいのは親譲りです。私の祖父・音治郎は、一七五センチはあったでしょう、背が高く、足の大きな人でした。しかも、足の人差し指は親指よりも長いのが特徴でした。子ども時代、大人たちから聞かされていたのは、足の大きな人はよく稼ぐということでした。実際、祖父も父もよく働きました。炭俵や刈ったばかりの稲をたくさん背負って立っても、がんとしていました。大きな足がしっかりと支えていたのです。

娘が靴を買ってくれたことで、父がもう何十年も履いている茶色の革靴を思い出しました。靴底はたいして減っていないものの、外見はかなりくたびれています。数年前、親戚の結婚式でも履いて行ったのですが、目出度い席に履いて出るには古すぎると感じました。

我が家の子どもたちも、そろそろ、結婚式を挙げる時が来ても不思議ではありません。そうなれば、父にピカピカの革靴を買ってあげようと思います。式場で車椅子に乗り、新しい革靴を履いた父がその時どんな表情を見せてくれるか、楽しみます。

貧困と格差なくせ、憲法9条を守ろう

第78回メーデー上越集会で約100人が氣勢

5月1日。全労連系のメーデー上越集会に参加してきました。雁木通りプラザ6階での、こじんまりした集会ではありましたが、参加した民主団体、労働組合の皆さんが、いまの経済や暮らしの実態をどう見ているのかなどを知ることができて勉強になりましたし、

元気をもらいました。

来賓の挨拶の2番手に登場した日本共産党上越地区委員会の阿部正義委員長は、「いま、貧困と格差の広がり誰も否定できない状況となっている。こうした状況を打開するための課題は3つある。1つは、大企業には減税、庶民には増税という税制の仕組みを変えること。2つ目は、負担を増やし、給付は減らすという社会保障の改悪をやめさせること。そして3つ目は、ズタズタにされてしまった働くルールを直すことだ。若い労働者のうち半分は非正規職員となっているが、人間の使い捨てやめよの声を上げなければいけない」と訴えました。

集会では国公共闘の労働者など数人が挨拶、決意表明をしました。このうち、上越民主商工会長の宮崎さんは、「これまで直江津のイトーヨーカドーを担ってきた地元の直江津商業開発は5月に解散されることになった。今後は新たな組織が運営にあたる。旧長崎屋地下で営業していたイチコスーパーが撤退して1ヶ月経った。上越市の経済はあらゆる面で荒れている」などのべ、市内商業の厳しい情勢を報告しました。

集会後はデモ行進です。台風並みの強風が吹く中、「憲法9条の改悪に反対、平和憲法を守ろう」「非正規職員を無くせ」「医療制度の改悪反対」などのシュプレヒコールをしながら、約1時間歩きました。

(写真は本町3丁目をデモ行進する集会参加者。1日、橋爪が撮影)

